

第3版から第4版への新旧対照表

変更箇所	旧	新																																																																																																																									
P17 本文 12行目	猫は6万5,000Hzという…	猫は6万 <u>4,000</u> ～ 8万 <u>5,000</u> Hz という…																																																																																																																									
P18 設問の選択肢	①中型犬の平均寿命は約 13 歳である ②小型犬の平均寿命は約 14 歳である ③猫の平均寿命は約 15 歳である	①中・大型犬の平均寿命は約 <u>14</u> 歳である ②小型犬の平均寿命は約 14 歳である ③猫の平均寿命は約 <u>16</u> 歳である																																																																																																																									
解説 本文 8行目～11行目	「2018 年全国犬猫飼育実態調査」※によると、平均寿命は小型犬のほうが長く、超小型犬で 15 歳、小型犬で約 14 歳、中・大型犬で約 13 歳となっています。そして、猫の平均寿命は約 15 歳です。	「 <u>2022</u> 年全国犬猫飼育実態調査」※によると、平均寿命は小型犬のほうが長く、超小型犬で <u>15.3</u> 歳、小型犬で約 <u>14.3</u> 歳、中・大型犬で約 <u>13.8</u> 歳となっています。そして、猫の平均寿命は約 <u>15.6</u> 歳です。																																																																																																																									
P40 本文 8行目～9行目	冷たい水や食塩を少しだけ入れた水、ミネラルウォーターではなく、	冷たい水ではなく、																																																																																																																									
P47 本文 11行目～12行目	(公社) 日本獣医師会のデータベースに登録申請 (届出) します。	<u>環境省</u> のデータベースに登録申請 (届出) します。																																																																																																																									
P61 本文下 表	<p>&lt; 旧 &gt;</p> <p>ワクチンで予防できる犬の感染症と混合ワクチンの組み合わせ例</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">病名</th> <th colspan="6">混合ワクチンの種類</th> </tr> <tr> <th>2種</th> <th>5種</th> <th>6種</th> <th>7種</th> <th>8種</th> <th>9種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ジステンパー</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>犬伝染性肝炎 (アデノウイルス1型)</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>アデノウイルス2型</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>犬パラインフルエンザ</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>犬パルボウイルス感染症</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>犬コロナウイルス感染症</td> <td></td> <td></td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>犬レプトスピラ症 黄疸出血型</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>カニコーラ型</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>ヘブドマデイス型</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>●</td> </tr> </tbody> </table> <p>* 法律で義務づけられている「狂犬病」は除く。 * 混合ワクチンの組み合わせは、メーカーによって異なる場合があります。</p> <p>日清ペットフードホームページ「いぬのしあわせ」より</p> <p>&lt; 新 &gt;</p> <p>混合ワクチンの種類と防げる病気</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>防くことができる病気</th> <th>5種</th> <th>6種</th> <th>7種</th> <th>8種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>犬ジステンパーウイルス感染症</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>犬アデノウイルス1型感染症 (犬伝染性肝炎)</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>犬アデノウイルス2型感染症 (犬伝染性喉頭気管支炎)</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>犬パラインフルエンザ感染症</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>犬パルボウイルス感染症</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>コロナウイルス感染症</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>犬レプトスピラ症 (イクテロヘモラーシ型)</td> <td></td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>犬レプトスピラ症(カニコーラ型)</td> <td></td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> </tbody> </table> <p>* 法律で義務づけられている「狂犬病」は除く。 * 混合ワクチンの組み合わせは、メーカーによって異なる場合があります。</p> <p>「愛犬飼育スペシャリスト」テキスト1より</p>		病名	混合ワクチンの種類						2種	5種	6種	7種	8種	9種	ジステンパー	●	●	●	●	●	●	犬伝染性肝炎 (アデノウイルス1型)		●	●	●	●	●	アデノウイルス2型		●	●	●	●	●	犬パラインフルエンザ		●	●	●	●	●	犬パルボウイルス感染症	●	●	●	●	●	●	犬コロナウイルス感染症			●		●	●	犬レプトスピラ症 黄疸出血型				●	●	●	カニコーラ型				●	●	●	ヘブドマデイス型						●	防くことができる病気	5種	6種	7種	8種	犬ジステンパーウイルス感染症	●	●	●	●	犬アデノウイルス1型感染症 (犬伝染性肝炎)	●	●	●	●	犬アデノウイルス2型感染症 (犬伝染性喉頭気管支炎)	●	●	●	●	犬パラインフルエンザ感染症	●	●	●	●	犬パルボウイルス感染症	●	●	●	●	コロナウイルス感染症		●		●	犬レプトスピラ症 (イクテロヘモラーシ型)			●	●	犬レプトスピラ症(カニコーラ型)			●	●
病名	混合ワクチンの種類																																																																																																																										
	2種	5種	6種	7種	8種	9種																																																																																																																					
ジステンパー	●	●	●	●	●	●																																																																																																																					
犬伝染性肝炎 (アデノウイルス1型)		●	●	●	●	●																																																																																																																					
アデノウイルス2型		●	●	●	●	●																																																																																																																					
犬パラインフルエンザ		●	●	●	●	●																																																																																																																					
犬パルボウイルス感染症	●	●	●	●	●	●																																																																																																																					
犬コロナウイルス感染症			●		●	●																																																																																																																					
犬レプトスピラ症 黄疸出血型				●	●	●																																																																																																																					
カニコーラ型				●	●	●																																																																																																																					
ヘブドマデイス型						●																																																																																																																					
防くことができる病気	5種	6種	7種	8種																																																																																																																							
犬ジステンパーウイルス感染症	●	●	●	●																																																																																																																							
犬アデノウイルス1型感染症 (犬伝染性肝炎)	●	●	●	●																																																																																																																							
犬アデノウイルス2型感染症 (犬伝染性喉頭気管支炎)	●	●	●	●																																																																																																																							
犬パラインフルエンザ感染症	●	●	●	●																																																																																																																							
犬パルボウイルス感染症	●	●	●	●																																																																																																																							
コロナウイルス感染症		●		●																																																																																																																							
犬レプトスピラ症 (イクテロヘモラーシ型)			●	●																																																																																																																							
犬レプトスピラ症(カニコーラ型)			●	●																																																																																																																							

変更箇所	旧	新																																																																																									
P64 メモ欄 12行目	日本愛玩動物協会が事務局となり、…	<u>東洋大学国際観光学科東海林ゼミ</u> が事務局となり、…																																																																																									
P71 本文下 表	<p>&lt;旧&gt;</p> <p>ワクチンで予防できる猫の感染症と混合ワクチンの組み合わせ例</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">病名</th> <th colspan="5">混合ワクチンの種類</th> </tr> <tr> <th>3種</th> <th>4種</th> <th>5種</th> <th>7種</th> <th>単体</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>猫ウイルス性鼻気管炎</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>猫カリシウイルス感染症</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>3種*</td> <td></td> </tr> <tr> <td>猫汎白血球減少症</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>猫クラミジア感染症</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>猫白血病ウイルス感染症</td> <td></td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>猫免疫不全ウイルス感染症</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>●</td> </tr> </tbody> </table> <p><small>※猫カリシウイルスにはいくつかのタイプがあり、5種までは1種類のカリシウイルスしか予防できませんでしたが、7種混合ワクチンでは、3種類のカリシウイルスを予防することができるようになりました。</small></p> <p>&lt;新&gt;</p> <p>ワクチンの種類と防げる病気</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ワクチンで防ぐことができる病気</th> <th>3種混合</th> <th>4種混合</th> <th>5種混合</th> <th>単体接種</th> <th>どんな病気？</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>猫ウイルス性鼻気管炎 (FVR)</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td></td> <td>鼻水やくしゃみ、せき、発熱、角膜炎、結膜炎、肺炎などの症状が現れる。</td> </tr> <tr> <td>猫カリシウイルス感染症 (FCV)</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td></td> <td>鼻水やくしゃみなどの症状のほか、口内炎や舌炎を引き起こすのが特徴。</td> </tr> <tr> <td>猫汎白血球減少症 (猫バルボウイルス (FPV) 感染症ともいう)</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td></td> <td>白血球が急減し、はげしい嘔吐と下痢を起こす。感染力が強く、死に至ることもある。</td> </tr> <tr> <td>猫白血病ウイルス (FeLV) 感染症</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td></td> <td>白血病のほか、免疫不全、貧血、リンパ腫などを起こし、発症すると死に至る。</td> </tr> <tr> <td>猫クラミジア感染症</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> <td></td> <td>結膜炎、鼻水、くしゃみなどの症状が現れる。進行すると、肺炎を招くこともある。</td> </tr> <tr> <td>猫免疫不全ウイルス (FIV) 感染症 (猫エイズともいう)</td> <td></td> <td></td> <td>●</td> <td></td> <td>免疫力の低下とともに、口内炎や皮膚炎、腫瘍、ほかの感染症などを引き起こす。</td> </tr> </tbody> </table> <p><small>「愛猫飼育スペシャリスト」テキスト2より</small></p>	病名	混合ワクチンの種類					3種	4種	5種	7種	単体	猫ウイルス性鼻気管炎	●	●	●	●		猫カリシウイルス感染症	●	●	●	3種*		猫汎白血球減少症	●	●	●	●		猫クラミジア感染症		●	●	●		猫白血病ウイルス感染症			●	●	●	猫免疫不全ウイルス感染症					●	ワクチンで防ぐことができる病気	3種混合	4種混合	5種混合	単体接種	どんな病気？	猫ウイルス性鼻気管炎 (FVR)	●	●	●		鼻水やくしゃみ、せき、発熱、角膜炎、結膜炎、肺炎などの症状が現れる。	猫カリシウイルス感染症 (FCV)	●	●	●		鼻水やくしゃみなどの症状のほか、口内炎や舌炎を引き起こすのが特徴。	猫汎白血球減少症 (猫バルボウイルス (FPV) 感染症ともいう)	●	●	●		白血球が急減し、はげしい嘔吐と下痢を起こす。感染力が強く、死に至ることもある。	猫白血病ウイルス (FeLV) 感染症	●	●	●		白血病のほか、免疫不全、貧血、リンパ腫などを起こし、発症すると死に至る。	猫クラミジア感染症		●			結膜炎、鼻水、くしゃみなどの症状が現れる。進行すると、肺炎を招くこともある。	猫免疫不全ウイルス (FIV) 感染症 (猫エイズともいう)			●		免疫力の低下とともに、口内炎や皮膚炎、腫瘍、ほかの感染症などを引き起こす。	
病名	混合ワクチンの種類																																																																																										
	3種	4種	5種	7種	単体																																																																																						
猫ウイルス性鼻気管炎	●	●	●	●																																																																																							
猫カリシウイルス感染症	●	●	●	3種*																																																																																							
猫汎白血球減少症	●	●	●	●																																																																																							
猫クラミジア感染症		●	●	●																																																																																							
猫白血病ウイルス感染症			●	●	●																																																																																						
猫免疫不全ウイルス感染症					●																																																																																						
ワクチンで防ぐことができる病気	3種混合	4種混合	5種混合	単体接種	どんな病気？																																																																																						
猫ウイルス性鼻気管炎 (FVR)	●	●	●		鼻水やくしゃみ、せき、発熱、角膜炎、結膜炎、肺炎などの症状が現れる。																																																																																						
猫カリシウイルス感染症 (FCV)	●	●	●		鼻水やくしゃみなどの症状のほか、口内炎や舌炎を引き起こすのが特徴。																																																																																						
猫汎白血球減少症 (猫バルボウイルス (FPV) 感染症ともいう)	●	●	●		白血球が急減し、はげしい嘔吐と下痢を起こす。感染力が強く、死に至ることもある。																																																																																						
猫白血病ウイルス (FeLV) 感染症	●	●	●		白血病のほか、免疫不全、貧血、リンパ腫などを起こし、発症すると死に至る。																																																																																						
猫クラミジア感染症		●			結膜炎、鼻水、くしゃみなどの症状が現れる。進行すると、肺炎を招くこともある。																																																																																						
猫免疫不全ウイルス (FIV) 感染症 (猫エイズともいう)			●		免疫力の低下とともに、口内炎や皮膚炎、腫瘍、ほかの感染症などを引き起こす。																																																																																						
P75 メモ欄 4行目	2017年度には4,316件の…	2021（令和3）年度には <u>4,423</u> 件の…																																																																																									
P82 設問の選択肢	①「オイデ」と呼んで飼い主のもとに来たらオヤツを与える ③遊んでいたのと一緒に遊んであげた	①「オイデ」と呼んで飼い主のもとに来た <u>ので</u> オヤツを与えた ③ <u>オモチャ</u> で遊んでいたのと一緒に遊んであげた																																																																																									
P85 問題文  全体  メモ欄 11行目	パピートレーニングについての説明で、適切でないものはどれでしょうか？  パピートレーニング  生後2～4カ月の子犬	パピー <u>クラス</u> についての説明で、適切でないものはどれでしょうか？  <u>パピークラス</u>  生後 <u>6カ月</u> くらいまでの子犬																																																																																									
P104 設問の選択肢	②脂肪	② <u>脂質</u>																																																																																									
P106 本文 8行目  メモ欄	ウェットフードは水分を80%程度…  2018年度の犬用・猫用ペットフードの総出荷量における比率をみると、犬用ではドライ73%、ウェット9%、猫用ではドライ71%、ウエ	ウェットフードは水分を <u>75%</u> 程度…  <u>2021（令和3）</u> 年度の犬用・猫用ペットフードの総出荷量における比率をみると、犬用ではドライ <u>51%</u> 、ウェット <u>17%</u> 、猫用ではドライ																																																																																									

変更箇所	旧	新																																				
	ット 15 % となっています (一般社団法人ペットフード協会「平成 30 年度ペットフード産業実態調査の結果」より)。	<u>47%</u> 、ウエット <u>48 %</u> となっています(一般社団法人ペットフード協会「 <u>2021 (令和 3) 年度</u> ペットフード産業実態調査の結果」より)。																																				
P107 本文 4 行目～5 行目	主に光、空気(酸素)、温度です。	主に光、空気(酸素)、温度などによる <u>酸化</u> です。																																				
P112 全体	ホームドクター	<u>主治医</u>																																				
P114 設問の選択肢  本文 1 行目～3 行目  本文下 表	<p>①約 550 円 ②約 5,500 円 ③約 55,000 円 ④約 550,000 円</p> <p>アニコム損害保険株式会社の 2018 年の調査では、ケガや病気などによる年間の平均治療費は、犬が 70,358 円、猫が 40,356 円でした(平均 55,317 円)。</p> <p>&lt;旧&gt;</p> <p>ペットにかかる年間支出調査 <span style="float:right">単位:円</span></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>犬</th> <th>猫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病気やケガの治療費</td> <td>70,358</td> <td>40,356</td> </tr> <tr> <td>フード・おやつ</td> <td>57,220</td> <td>43,205</td> </tr> <tr> <td>しつけ・トレーニング料</td> <td>53,928</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>シャンプー・カット・トリミング料</td> <td>47,653</td> <td>7,644</td> </tr> <tr> <td>ペット保険料</td> <td>49,464</td> <td>31,694</td> </tr> </tbody> </table> <p>アニコム損害保険株式会社(2018年)より</p> <p>&lt;新&gt;</p> <p>ペットにかかる年間支出調査 <span style="float:right">単位:円</span></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>犬</th> <th>猫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病気やケガの治療費</td> <td>67,367</td> <td>31,138</td> </tr> <tr> <td>フード・おやつ</td> <td>66,066</td> <td>49,103</td> </tr> <tr> <td>しつけ・トレーニング料</td> <td>7,930</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>シャンプー・カット・トリミング料</td> <td>47,273</td> <td>2,714</td> </tr> <tr> <td>ペット保険料</td> <td>45,445</td> <td>27,385</td> </tr> </tbody> </table> <p>アニコム損害保険株式会社(2022[令和4]年)より一部抜粋</p>	項目	犬	猫	病気やケガの治療費	70,358	40,356	フード・おやつ	57,220	43,205	しつけ・トレーニング料	53,928	—	シャンプー・カット・トリミング料	47,653	7,644	ペット保険料	49,464	31,694	項目	犬	猫	病気やケガの治療費	67,367	31,138	フード・おやつ	66,066	49,103	しつけ・トレーニング料	7,930	0	シャンプー・カット・トリミング料	47,273	2,714	ペット保険料	45,445	27,385	<p>①約 500 円 ②約 5,000 円 ③約 50,000 円 ④約 500,000 円</p> <p>アニコム損害保険株式会社が<u>契約者</u>に行った <u>2022 (令和 4) 年</u>の調査では、ケガや病気などによる年間の平均治療費は、犬が <u>67,367 円</u>、猫が <u>31,138 円</u>でした(平均 <u>49,253 円</u>)。</p>
項目	犬	猫																																				
病気やケガの治療費	70,358	40,356																																				
フード・おやつ	57,220	43,205																																				
しつけ・トレーニング料	53,928	—																																				
シャンプー・カット・トリミング料	47,653	7,644																																				
ペット保険料	49,464	31,694																																				
項目	犬	猫																																				
病気やケガの治療費	67,367	31,138																																				
フード・おやつ	66,066	49,103																																				
しつけ・トレーニング料	7,930	0																																				
シャンプー・カット・トリミング料	47,273	2,714																																				
ペット保険料	45,445	27,385																																				
P115 設問の選択肢  本文 10 行目	<p>①約 1 % ②約 8 % ③約 50 % ④約 90 %</p> <p>まだ 8 %程度…</p>	<p>①約 1 % ②約 <u>12%</u> ③約 50 % ④約 90 %</p> <p>まだ <u>12%</u>程度</p>																																				
P126 設問の選択肢	<p>①約 9 % ②約 39 %</p>	<p>①約 <u>10%</u> ②約 <u>40%</u></p>																																				

変更箇所	旧	新																				
<p>メモ欄 2行目～10行目</p> <p>本文下 表</p>	<p>③約 69% ④約 89%</p> <p>獣医師になるためには、全国 17 大学に設けられている獣医学科（6年制）を卒業し、国家試験に合格しなければなりません。獣医師国家試験の合格率は約 80 % で、毎年約 1,000名の獣医師が誕生しています。</p> <p>&lt;旧&gt;</p> <p><b>獣医師の活躍分野 獣医師の活動状況（平成26年）</b></p> <table border="1" data-bbox="619 768 1182 981"> <tr> <td>産業動物分野（ウシやニワトリなどの産業動物の診療に従事）</td> <td>4,317人（11%）</td> </tr> <tr> <td>公衆衛生分野（家畜伝染病の防疫、食品衛生監視などの行政に携わる）</td> <td>9,456人（24%）</td> </tr> <tr> <td>家庭動物分野（犬猫等のペット動物の診療に従事）</td> <td>1万5,205人（39%）</td> </tr> <tr> <td>その他の分野（大学の教員、製薬会社等、幅広い分野で活躍）</td> <td>5,570人（14%）</td> </tr> <tr> <td>獣医事に従事していない人</td> <td>4,550人（12%）</td> </tr> </table> <p>農林水産省ホームページ「特集1 獣医師の仕事（2）」より</p> <p>&lt;新&gt;</p> <p><b>獣医師の活躍分野</b></p> <table border="1" data-bbox="619 1104 1182 1317"> <tr> <td>産業動物分野（ウシやニワトリなどの産業動物の診療に従事）</td> <td>7,590人（19%）</td> </tr> <tr> <td>公衆衛生分野（家畜伝染病の防疫、食品衛生監視などの行政に携わる）</td> <td>5,531人（14%）</td> </tr> <tr> <td>家庭動物分野（犬猫等のペット動物の診療に従事）</td> <td>1万6,203人（40%）</td> </tr> <tr> <td>その他の分野（大学の教員、製薬会社等、幅広い分野で活躍）</td> <td>6,531人（16%）</td> </tr> <tr> <td>獣医事に従事していない人</td> <td>4,396人（11%）</td> </tr> </table> <p>獣医師法第22条の届出状況（2020【令和2】年）（農林水産省）より一部改変</p>	産業動物分野（ウシやニワトリなどの産業動物の診療に従事）	4,317人（11%）	公衆衛生分野（家畜伝染病の防疫、食品衛生監視などの行政に携わる）	9,456人（24%）	家庭動物分野（犬猫等のペット動物の診療に従事）	1万5,205人（39%）	その他の分野（大学の教員、製薬会社等、幅広い分野で活躍）	5,570人（14%）	獣医事に従事していない人	4,550人（12%）	産業動物分野（ウシやニワトリなどの産業動物の診療に従事）	7,590人（19%）	公衆衛生分野（家畜伝染病の防疫、食品衛生監視などの行政に携わる）	5,531人（14%）	家庭動物分野（犬猫等のペット動物の診療に従事）	1万6,203人（40%）	その他の分野（大学の教員、製薬会社等、幅広い分野で活躍）	6,531人（16%）	獣医事に従事していない人	4,396人（11%）	<p>③約 70% ④約 90%</p> <p>獣医師になるためには、全国 18 大学に設けられている獣医学科（6年制）を卒業し、国家試験に合格しなければなりません。獣医師国家試験の合格率は約 70 % で、毎年約 1,000名の獣医師が誕生しています。</p>
産業動物分野（ウシやニワトリなどの産業動物の診療に従事）	4,317人（11%）																					
公衆衛生分野（家畜伝染病の防疫、食品衛生監視などの行政に携わる）	9,456人（24%）																					
家庭動物分野（犬猫等のペット動物の診療に従事）	1万5,205人（39%）																					
その他の分野（大学の教員、製薬会社等、幅広い分野で活躍）	5,570人（14%）																					
獣医事に従事していない人	4,550人（12%）																					
産業動物分野（ウシやニワトリなどの産業動物の診療に従事）	7,590人（19%）																					
公衆衛生分野（家畜伝染病の防疫、食品衛生監視などの行政に携わる）	5,531人（14%）																					
家庭動物分野（犬猫等のペット動物の診療に従事）	1万6,203人（40%）																					
その他の分野（大学の教員、製薬会社等、幅広い分野で活躍）	6,531人（16%）																					
獣医事に従事していない人	4,396人（11%）																					
<p>P127 設問</p> <p>選択肢</p> <p>本文 1行目～5行目</p>	<p>犬がかかる次の病気のなかで、一番多いものはどれでしょうか？</p> <p>①フィラリア ②狂犬病 ③腎不全 ④外耳炎</p> <p>アニコム ホールディングス株式会社がまとめた「アニコム家庭どうぶつ白書 2012」によると、犬のペット保険の請求理由、つまり動物病院にかかった病気のトップ3は、 1位：外耳炎、2位：皮膚炎、3位：膿皮症となっていま</p>	<p>犬がかかる次の疾患のなかで、一番多いものはどれでしょうか？</p> <p>①眼の疾患 ②歯・口腔疾患 ③生殖器疾患 ④皮膚疾患</p> <p>アニコム ホールディングス株式会社がまとめた「アニコム家庭どうぶつ白書 2022」によると、犬のペット保険の請求理由、つまり動物病院にかかった疾患のトップ3は、 1位：皮膚疾患、2位：消化器疾患、3位：耳の疾患とな</p>																				

変更箇所	旧	新
	す。	っています。
P147 メモ欄	2017 年の殺処分数は全国で 10 万頭ですが、	2021 (令和 3) 年の殺処分数は全国で 1 万 4 千頭ですが、
P149 本文 12 行目～13 行目  メモ欄 4 行目～10 行目	平成 29 年度の接種率は全国で 71.4% でした。  2004 年の WHO (世界保健機関) の発表では、年間の死亡者数の推計は 55,000 人 (アジア地域 31,000 人、アフリカ地域 24,000 人) です。	2021 (令和 3) 年度の接種率は全国で 70.9% でした。  2017 年の WHO (世界保健機関) の発表では、年間の死亡者数の推計は 59,000 人 (アジア地域 35,000 人、アフリカ地域 21,000 人) です。
P150 メモ欄 6 行目～11 行目	平成 28 年度の動物に関する苦情件数 2,199 件のうち、糞尿や悪臭に関するものが最も多く 1,091 件、鳴き声に関するものが 515 件でした。	2021 (令和 3) 年度の動物に関する苦情件数 1,382 件のうち、汚物・汚水や悪臭に関するものは 84 件 (6%) でした。2016 (平成 28) 年度の苦情件数は、糞尿や悪臭に関するものが最も多く 1,091 件 (50%)、鳴き声に関するものが 515 件 (23%) だったことをふまえると、大きく減少しています。
P151 設問	動物愛護管理法の「飼い主の基本原則」で、触れられていないものはどれでしょうか？	動物愛護管理法の「飼い主などの責務」で、ふれられていないものはどれでしょうか？
P153 本文 13 行目～15 行目	2019 年 3 月時点での補助犬別実働頭数は盲導犬 941 頭、介助犬 65 頭、聴導犬 68 頭です	2022 (令和 4) 年 10 月時点での補助犬別実働頭数は盲導犬 848 頭、介助犬 53 頭、聴導犬 58 頭です
P158 設問   選択肢  本文 5 行目～9 行目	最近の世論調査の結果で、「ペットを飼って良いと思うこと」のベスト 3 に挙げられていないものは、次のうちのどれでしょうか？  ②家庭がなごやかになる ③子どもたちが心豊かに育つ  下表の第 1 位の「生活に潤いや安らぎが生まれる」を挙げた人は平成 12 年度の調査より約 10 ポイント、第 2 位の	最近の世論調査の結果で、「ペットが人に与える影響」のベスト 3 に挙げられていないものは、次のうちのどれでしょうか？  ②お年寄りの慰めになる ③育てることが生きがいとなる  下表の内閣府「環境問題に関する世論調査」では、「ペットが人に与える影響」という設問に対し、「生活に潤いや

変更箇所	旧	新																																																
<p>本文下 表</p>	<p>「家庭がなごやかになる」は約 13 ポイント上昇しています。犬や猫などのペットの存在によって生活の質の向上等が期待されていることがわかります。</p> <p>&lt;旧&gt;</p> <p><b>ペット飼育が良い理由</b></p> <table border="1"> <tbody> <tr><td>61.4%</td><td>生活に潤いや安らぎが生まれる</td></tr> <tr><td>55.3%</td><td>家庭がなごやかになる</td></tr> <tr><td>47.2%</td><td>子どもたちが心豊かに育つ</td></tr> <tr><td>31.6%</td><td>育てることが楽しい</td></tr> <tr><td>25.7%</td><td>防犯や留守番に役立つ</td></tr> <tr><td>24.7%</td><td>お年寄りの慰めになる</td></tr> <tr><td>23.8%</td><td>ペットを通じて人づきあいが深まる</td></tr> <tr><td>18.0%</td><td>友だちになれる</td></tr> <tr><td>7.3%</td><td>特にない</td></tr> <tr><td>1.9%</td><td>繁殖させることが楽しい</td></tr> <tr><td>0.9%</td><td>その他</td></tr> <tr><td>0.7%</td><td>わからない</td></tr> </tbody> </table> <p>内閣府「動物愛護に関する世論調査」(平成22年度)より</p> <p>&lt;新&gt;</p> <p><b>ペットが人に与える影響</b></p> <table border="1"> <tbody> <tr><td>75.1%</td><td>生活に潤いや安らぎが生まれる</td></tr> <tr><td>50.4%</td><td>お年寄りの慰めになる</td></tr> <tr><td>47.5%</td><td>育てることが生きがいとなる</td></tr> <tr><td>43.3%</td><td>ペットを通じて人づきあいが深まる</td></tr> <tr><td>37.3%</td><td>鳴き声、悪臭など周囲の人に迷惑をかける</td></tr> <tr><td>31.3%</td><td>防犯や留守番に役立つ</td></tr> <tr><td>20.9%</td><td>咬まれるなどの危害を加えられる</td></tr> <tr><td>19.7%</td><td>人に感染する病気の心配がある</td></tr> <tr><td>15.5%</td><td>ペット飼育によって近隣住民との関係が悪くなる</td></tr> <tr><td>0.6%</td><td>その他</td></tr> <tr><td>3.8%</td><td>特にない</td></tr> <tr><td>0.9%</td><td>わからない</td></tr> </tbody> </table> <p>内閣府「環境問題に関する世論調査」(2019 [令和元] 年度)より</p>	61.4%	生活に潤いや安らぎが生まれる	55.3%	家庭がなごやかになる	47.2%	子どもたちが心豊かに育つ	31.6%	育てることが楽しい	25.7%	防犯や留守番に役立つ	24.7%	お年寄りの慰めになる	23.8%	ペットを通じて人づきあいが深まる	18.0%	友だちになれる	7.3%	特にない	1.9%	繁殖させることが楽しい	0.9%	その他	0.7%	わからない	75.1%	生活に潤いや安らぎが生まれる	50.4%	お年寄りの慰めになる	47.5%	育てることが生きがいとなる	43.3%	ペットを通じて人づきあいが深まる	37.3%	鳴き声、悪臭など周囲の人に迷惑をかける	31.3%	防犯や留守番に役立つ	20.9%	咬まれるなどの危害を加えられる	19.7%	人に感染する病気の心配がある	15.5%	ペット飼育によって近隣住民との関係が悪くなる	0.6%	その他	3.8%	特にない	0.9%	わからない	<p><u>安らぎが生まれる」「お年寄りの慰めになる」「育てることが生きがいとなる」「ペットを通じて人づきあいが深まる」など、ペット飼育のメリットが上位に挙がっています。</u></p>
61.4%	生活に潤いや安らぎが生まれる																																																	
55.3%	家庭がなごやかになる																																																	
47.2%	子どもたちが心豊かに育つ																																																	
31.6%	育てることが楽しい																																																	
25.7%	防犯や留守番に役立つ																																																	
24.7%	お年寄りの慰めになる																																																	
23.8%	ペットを通じて人づきあいが深まる																																																	
18.0%	友だちになれる																																																	
7.3%	特にない																																																	
1.9%	繁殖させることが楽しい																																																	
0.9%	その他																																																	
0.7%	わからない																																																	
75.1%	生活に潤いや安らぎが生まれる																																																	
50.4%	お年寄りの慰めになる																																																	
47.5%	育てることが生きがいとなる																																																	
43.3%	ペットを通じて人づきあいが深まる																																																	
37.3%	鳴き声、悪臭など周囲の人に迷惑をかける																																																	
31.3%	防犯や留守番に役立つ																																																	
20.9%	咬まれるなどの危害を加えられる																																																	
19.7%	人に感染する病気の心配がある																																																	
15.5%	ペット飼育によって近隣住民との関係が悪くなる																																																	
0.6%	その他																																																	
3.8%	特にない																																																	
0.9%	わからない																																																	
<p>P160 設問</p> <p>選択肢</p> <p>解説</p> <p>本文 7行目～8行目</p>	<p>(平成 29 年現在)</p> <p>②約 5 万頭 ③約 10 万頭</p> <p>約 10 万頭のうち約 1 万 5 千頭は飼い主の持ち込みによる引き取り</p> <p>平成 29 年度には、10 万頭以上の犬・猫が動物愛護管理センターに引き取られて、そのうち約 1 万 5 千頭は</p>	<p>(<u>2021 [令和 3] 年現在</u>)</p> <p>②約 <u>6</u> 万頭 ③約 <u>15</u> 万頭</p> <p>約 10 万頭のうち約 1 万 <u>2</u> 千頭は飼い主の持ち込みによる引き取り</p> <p><u>2021 (令和 3) 年度には、6</u> 万頭以上の犬・猫が動物愛護管理センターに引き取られて、そのうち約 1 万 <u>2</u> 千頭は</p>																																																

変更箇所	旧	新																																																																																																																
本文下 表	<p>&lt;旧&gt;</p> <p><b>犬・猫の引き取り数</b> (頭)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3"></th> <th colspan="4">引き取り数</th> <th rowspan="3"></th> <th colspan="3">処分数</th> </tr> <tr> <th colspan="2">飼い主から</th> <th colspan="2">所有者不明</th> <th rowspan="2">返還数</th> <th rowspan="2">譲渡数</th> <th rowspan="2">殺処分数</th> </tr> <tr> <th>成体</th> <th>幼体</th> <th>成体</th> <th>幼体</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>犬</td> <td>3,775</td> <td>340</td> <td>28,178</td> <td>6,218</td> <td>(犬・計) 38,511</td> <td>12,286</td> <td>17,669</td> <td>8,362</td> </tr> <tr> <td>猫</td> <td>7,488</td> <td>3,658</td> <td>13,754</td> <td>37,237</td> <td>(猫・計) 62,137</td> <td>316</td> <td>26,651</td> <td>34,854</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>11,263</td> <td>3,998</td> <td>41,932</td> <td>43,455</td> <td>(総計) 100,648</td> <td>12,602</td> <td>44,320</td> <td>43,216</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">15,261</td> <td colspan="2">85,387</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>環境省「犬・猫の引取り及び負傷動物の収容状況」(平成29年度)より</p> <p>&lt;新&gt;</p> <p><b>犬・猫の引き取り数と処分数</b> (頭)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3"></th> <th colspan="4">引き取り数</th> <th rowspan="3"></th> <th colspan="3">処分数</th> </tr> <tr> <th colspan="2">飼い主から</th> <th colspan="2">所有者不明</th> <th rowspan="2">返還数</th> <th rowspan="2">譲渡数</th> <th rowspan="2">殺処分数</th> </tr> <tr> <th>成体</th> <th>幼体</th> <th>成体</th> <th>幼体</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>犬</td> <td>2,657</td> <td>207</td> <td>16,572</td> <td>4,666</td> <td>(犬・計) 24,102</td> <td>8,402</td> <td>13,116</td> <td>2,739</td> </tr> <tr> <td>猫</td> <td>6,777</td> <td>2,825</td> <td>4,511</td> <td>20,692</td> <td>(猫・計) 34,805</td> <td>224</td> <td>22,888</td> <td>11,718</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>9,434</td> <td>3,032</td> <td>21,083</td> <td>25,358</td> <td>(総計) 58,907</td> <td>8,626</td> <td>36,004</td> <td>14,457</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">12,466</td> <td colspan="2">46,441</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>環境省「犬・猫の引取り及び負傷動物の収容状況」(2021【令和3】年度)より</p>		引き取り数					処分数			飼い主から		所有者不明		返還数	譲渡数	殺処分数	成体	幼体	成体	幼体	犬	3,775	340	28,178	6,218	(犬・計) 38,511	12,286	17,669	8,362	猫	7,488	3,658	13,754	37,237	(猫・計) 62,137	316	26,651	34,854	合計	11,263	3,998	41,932	43,455	(総計) 100,648	12,602	44,320	43,216		15,261		85,387							引き取り数					処分数			飼い主から		所有者不明		返還数	譲渡数	殺処分数	成体	幼体	成体	幼体	犬	2,657	207	16,572	4,666	(犬・計) 24,102	8,402	13,116	2,739	猫	6,777	2,825	4,511	20,692	(猫・計) 34,805	224	22,888	11,718	合計	9,434	3,032	21,083	25,358	(総計) 58,907	8,626	36,004	14,457		12,466		46,441						
	引き取り数					処分数																																																																																																												
	飼い主から		所有者不明			返還数		譲渡数	殺処分数																																																																																																									
	成体	幼体	成体	幼体																																																																																																														
犬	3,775	340	28,178	6,218	(犬・計) 38,511	12,286	17,669	8,362																																																																																																										
猫	7,488	3,658	13,754	37,237	(猫・計) 62,137	316	26,651	34,854																																																																																																										
合計	11,263	3,998	41,932	43,455	(総計) 100,648	12,602	44,320	43,216																																																																																																										
	15,261		85,387																																																																																																															
	引き取り数					処分数																																																																																																												
	飼い主から		所有者不明			返還数	譲渡数	殺処分数																																																																																																										
	成体	幼体	成体	幼体																																																																																																														
犬	2,657	207	16,572	4,666	(犬・計) 24,102	8,402	13,116	2,739																																																																																																										
猫	6,777	2,825	4,511	20,692	(猫・計) 34,805	224	22,888	11,718																																																																																																										
合計	9,434	3,032	21,083	25,358	(総計) 58,907	8,626	36,004	14,457																																																																																																										
	12,466		46,441																																																																																																															
P161 メモ欄 7行目～14行目	<p>①「1年以上の実務経験がある」、②「動物関連の所定の教育機関を卒業している」、③「愛玩動物飼養管理士など動物関連の所定の資格を取得している」のどれかに当てはまらなくてはなりません。</p>	<p>次のいずれかの要件を満たす必要があります。</p> <p>①獣医師 ②愛玩動物看護師 ③ 次の(ア)(イ)の両方または(ア)(ウ)の両方を満たしていること。</p> <p>(ア) 種別に係る半年以上の実務経験または実務経験と同等の1年以上の飼養経験 (イ) 種別に係る知識及び技術について1年間以上教育する学校を卒業 (ウ) 公平性、専門性のある団体が行った試験により資格等を得ている</p>																																																																																																																
P166 本文 1行目～2行目  本文	<p>大地震や台風、水害などで大きな被害が出るおそれがあるときに、避難の指示が出ることがあります。</p> <p>環境省も同行避難を推奨し</p>	<p>大地震や台風、水害などの災害時に優先すべきことは、自分の身を守ることです。自分の身が守れなければ、ペットを守ることもできません。</p> <p>大きな被害が出るおそれがあるときに、避難の指示が出ることがあります</p> <p>自宅や周辺地域の状況が安</p>																																																																																																																

変更箇所	旧	新
<p data-bbox="344 118 536 147">5行目～6行目</p> <p data-bbox="316 264 399 293">メモ欄</p>	<p data-bbox="616 118 740 147">ています。</p> <p data-bbox="616 264 673 293">追加</p> <p data-bbox="616 887 842 916">ペット救援の活動</p> <p data-bbox="616 936 976 1294">2014年6月に発足した一般財団法人ペット災害対策推進協会（平成28年3月までの旧名称は全国緊急災害時動物救援本部）は、大きな災害が起きたときに現地動物救援本部に対する支援活動を行う組織です。</p> <p data-bbox="616 1314 976 1538">従前は、日本動物愛護協会、日本動物福祉協会、日本愛玩動物協会、日本獣医師会の4つの団体が運営してきました。</p> <p data-bbox="616 1559 976 1865">中越地震や三宅島噴火、東日本大震災などのときには、ボランティアなどの人材、ペットフードなどの物資、資金などの面で手助けをしたり、被災した動物の救援活動支援を行いました。</p>	<p data-bbox="1007 118 1367 199"><u>全な場合は、在宅避難（自宅内避難）も検討します。</u></p> <p data-bbox="1007 264 1230 293"><u>自助・共助・公助</u></p> <p data-bbox="1007 313 1367 819"><u>近年、災害対策として、「自助」「共助」「公助」がキーワードになっています。「自助」は自分自身で自分の身を守ること、「共助」は近隣のコミュニティなどで互いに助け合うこと、「公助」は行政機関による救助や支援活動です。災害時の対策は、飼い主による「自助」が基本となります。</u></p> <p data-bbox="1007 887 1230 916">ペット救援の活動</p> <p data-bbox="1007 936 1367 1442"><u>被災地では、現地の動物救護本部、地方獣医師会、都道府県市の動物愛護管理センターがペットの健康相談や一時預かりの相談を無償で実施したりしています。実施されているサービスは、地域や期間で異なりますので、自治体や地方獣医師会のホームページなどで確認をしてください。</u></p>
<p data-bbox="228 1888 491 1917">P168 設問の選択肢</p> <p data-bbox="316 2130 373 2159">本文</p>	<p data-bbox="616 1888 775 1917">①約 15 億円</p> <p data-bbox="616 1937 791 1966">②約 150 億円</p> <p data-bbox="616 1986 815 2016">③約 1,500 億円</p> <p data-bbox="616 2036 871 2065">④約 1 兆 5,000 億円</p> <p data-bbox="632 2130 976 2159">「ペットビジネスに関する</p>	<p data-bbox="1007 1888 1166 1917">①約 17 億円</p> <p data-bbox="1007 1937 1182 1966">②約 170 億円</p> <p data-bbox="1007 1986 1206 2016">③約 1,700 億円</p> <p data-bbox="1007 2036 1262 2065">④約 1 兆 7,000 億円</p> <p data-bbox="1023 2130 1367 2159">「ペットビジネスに関する</p>

変更箇所	旧	新
2行目～7行目	調査結果 <u>2018</u> 」によると、 <u>2017</u> 年度のペット関連市場規模は1兆 <u>5,135</u> 億円になっています（見込）。ちなみに、アニコム損害保険株式会社の調査（ <u>2018</u> ）によると、飼育にかかる年間費用は犬で約48万円、猫で約 <u>23</u> 万円というデータもあります。	調査結果 <u>2022</u> 」によると、 <u>2021</u> （令和3）年度のペット関連市場規模は1兆 <u>7,187</u> 億円になっています。ちなみに、アニコム損害保険株式会社の調査（ <u>2021</u> ）によると、飼育にかかる年間費用は犬で約 <u>35</u> 万円、猫で約 <u>17</u> 万円というデータもあります。
P170 メモ欄 11行目	8団体	<u>10</u> 団体
P171 設問  選択肢  メモ欄	<p>ペットの種類別の飼育者数の順番で、正しいものはどれでしょうか？</p> <p>①犬&gt;猫&gt;魚類&gt;鳥類 ②猫&gt;犬&gt;魚類&gt;鳥類 ③魚類&gt;犬&gt;鳥類&gt;猫 ④犬&gt;鳥類&gt;猫&gt;魚類</p> <p>犬・猫の飼育頭数 一般社団法人ペットフード協会の調査（平成30年度）によると、犬は890万3千頭、猫は964万9千頭が飼育されています。その合計数1,855万2千頭は、15歳未満の子どもの数1,553万人を大きく上回っています。 また、飼育世帯率は犬が12.6%、猫が9.8%となっています。猫は多頭飼育が多いため、飼育世帯数は犬より少なくなっています。</p>	<p>ペットの種類別の飼育世帯数の順番で、正しいものはどれでしょうか？</p> <p>①犬&gt;猫&gt;小鳥&gt;ウサギ ②猫&gt;犬&gt;小鳥&gt;ウサギ ③カメ&gt;犬&gt;ウサギ&gt;猫 ④犬&gt;小鳥&gt;猫&gt;カメ</p> <p>犬・猫の飼育頭数 一般社団法人ペットフード協会の調査（<u>2022</u>[令和4]年度）によると、犬は<u>705</u>万3千頭、猫は<u>883</u>万7千頭が飼育されています。その合計数<u>1,589</u>万頭は、15歳未満の子どもの数の約<u>1,450</u>万人（総務省「人口推計」, 2022）を大きく上回っています。 また、飼育世帯数は犬が<u>9.69</u>%、猫が<u>8.63</u>% となっています。猫は多頭飼育が多いため、飼育世帯数は犬より少なくなっています。</p>

変更箇所	旧	新																																																																											
<p>本文下 表</p>	<p>&lt;旧&gt;</p> <p><b>飼育しているペットの種類の変遷（％）</b></p> <table border="1" data-bbox="619 208 1268 349"> <thead> <tr> <th></th> <th>犬</th> <th>猫</th> <th>魚類</th> <th>鳥類</th> <th>ウサギ</th> <th>爬虫類</th> <th>ネズミ類</th> <th>昆虫類</th> <th>両生類</th> <th>サル類</th> <th>その他は乳類</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>昭和54年</td> <td>46.1</td> <td>26.6</td> <td>11.2</td> <td>37.6</td> <td>4.5</td> <td>0.4</td> <td>調査なし</td> <td>1.0</td> <td>調査なし</td> <td>-</td> <td>調査なし</td> <td>1.4</td> </tr> <tr> <td>平成22年</td> <td>58.6</td> <td>30.9</td> <td>19.4</td> <td>5.7</td> <td>3.3</td> <td>2.6</td> <td>2.7</td> <td>3.6</td> <td>1.8</td> <td>調査なし</td> <td>1.1</td> <td>0.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>内閣府「動物愛護に関する世論調査」（平成22年度）より ※複数回答</p> <p>&lt;新&gt;</p> <p><b>現在飼育しているペット</b> (％)</p> <table border="1" data-bbox="619 495 1232 824"> <tbody> <tr> <td>犬</td> <td>11.1</td> <td>その他の魚</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>猫（外猫（野良猫・地域猫）は除く）</td> <td>9.6</td> <td>鯉・錦鯉</td> <td>0.4</td> </tr> <tr> <td>メダカ</td> <td>3.5</td> <td>海水魚</td> <td>0.4</td> </tr> <tr> <td>金魚</td> <td>2.2</td> <td>爬虫類（ヘビ、トカゲ等）</td> <td>0.3</td> </tr> <tr> <td>カメ</td> <td>1.6</td> <td>両生類（カエル、ウーパールーパー、イモリ等）</td> <td>0.2</td> </tr> <tr> <td>小鳥</td> <td>1.5</td> <td>モルモット（ギニビック）</td> <td>0.1</td> </tr> <tr> <td>熱帯魚</td> <td>1.4</td> <td>フェレット</td> <td>0.1</td> </tr> <tr> <td>ウサギ（ラビット）</td> <td>0.7</td> <td>その他のペット</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>ハムスター</td> <td>0.6</td> <td>1つもない</td> <td>72.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>一般社団法人ペットフード協会「2022（令和4）年全国犬猫飼育実態調査」より</p>		犬	猫	魚類	鳥類	ウサギ	爬虫類	ネズミ類	昆虫類	両生類	サル類	その他は乳類	その他	昭和54年	46.1	26.6	11.2	37.6	4.5	0.4	調査なし	1.0	調査なし	-	調査なし	1.4	平成22年	58.6	30.9	19.4	5.7	3.3	2.6	2.7	3.6	1.8	調査なし	1.1	0.2	犬	11.1	その他の魚	0.5	猫（外猫（野良猫・地域猫）は除く）	9.6	鯉・錦鯉	0.4	メダカ	3.5	海水魚	0.4	金魚	2.2	爬虫類（ヘビ、トカゲ等）	0.3	カメ	1.6	両生類（カエル、ウーパールーパー、イモリ等）	0.2	小鳥	1.5	モルモット（ギニビック）	0.1	熱帯魚	1.4	フェレット	0.1	ウサギ（ラビット）	0.7	その他のペット	0.5	ハムスター	0.6	1つもない	72.8	
	犬	猫	魚類	鳥類	ウサギ	爬虫類	ネズミ類	昆虫類	両生類	サル類	その他は乳類	その他																																																																	
昭和54年	46.1	26.6	11.2	37.6	4.5	0.4	調査なし	1.0	調査なし	-	調査なし	1.4																																																																	
平成22年	58.6	30.9	19.4	5.7	3.3	2.6	2.7	3.6	1.8	調査なし	1.1	0.2																																																																	
犬	11.1	その他の魚	0.5																																																																										
猫（外猫（野良猫・地域猫）は除く）	9.6	鯉・錦鯉	0.4																																																																										
メダカ	3.5	海水魚	0.4																																																																										
金魚	2.2	爬虫類（ヘビ、トカゲ等）	0.3																																																																										
カメ	1.6	両生類（カエル、ウーパールーパー、イモリ等）	0.2																																																																										
小鳥	1.5	モルモット（ギニビック）	0.1																																																																										
熱帯魚	1.4	フェレット	0.1																																																																										
ウサギ（ラビット）	0.7	その他のペット	0.5																																																																										
ハムスター	0.6	1つもない	72.8																																																																										
<p>P172 設問の選択肢</p> <p>解説</p> <p>本文 1行目～13行目</p>	<p>④愛玩動物看護師</p> <p>延べ18万人が取得する信頼性の高い資格</p> <p>「獣医師」は国家資格で、毎年、約1,000人が資格を取得し、平成28年現在、計38,958人が免許を取得しています。以前は複数の認定団体があった「動物看護師※」は、動物看護師統一認定機構による認定制度へと移行しました。機構への登録数は計22,938人（令和元年6月）で、毎年約数千人の学生が関連する勉強をしています。</p> <p>トリマーやトレーナー、販売士などペット関連の資格には多くの種類がありますが、毎年約数百人～1,000人程度です。</p> <p>昭和57年（1982年）から始まった「愛玩動物飼養管理士」は、日本愛玩動物協会が認定している歴史ある資格</p>	<p>④トレーナー（訓練士）</p> <p>延べ約22万人が取得する信頼性の高い資格</p> <p>「獣医師」は国家資格で、毎年、約1,000人が資格を取得し、<u>2020（令和2）年現在、計40,251人</u>が免許を取得しています。</p> <p>トリマーやトレーナー、販売士などペット関連の資格には多くの種類がありますが、毎年約数百人～1,000人程度です。</p> <p><u>1981（昭和56）年</u>から始まった「愛玩動物飼養管理士」は、日本愛玩動物協会が認定している歴史ある資格です。毎年、約1万人が受講し、これまでに延べ約22万人が資格を取得しました（<u>2023〔令和5〕年現在</u>）。</p>																																																																											

変更箇所	旧	新
	です。毎年、約1万人が受講し、これまでに延べ18万人が資格を取得しました（平成30年度）	
P174 設問  本文 3行目～4行目	近代において、世界で最初につくられた動物愛護管理法（マーチン法）の対象動物は何でしょうか？  「家畜の虐待と不相当取り扱い防止条例」	近代において、世界で最初につくられた <u>動物虐待防止法</u> （マーチン法）の対象動物は何でしょうか？  「家畜の虐待と <u>不当</u> 取り扱い防止条例」
P176 設問  選択肢	動物観の説明で、妥当なものはどれでしょうか？  ④日本では、人が管理する従属物 <sup>*3</sup> として考えられている	<u>動物に対する態度や考え方</u> である「動物観」の説明で、妥当なものはどれでしょうか？  ④日本では、 <u>動物を</u> 人が管理する従属物 <sup>*3</sup> として考えられている
P178 選択肢	④人の治療に動物を利用すること	<u>④治療のために動物の臓器を人に移植すること</u>